

外務省海外安全情報（危険情報：抜粋）

エルサルバドルの渡航を予定される皆様へ

発出日：2026年03月25日（継続）

サンサルバドル県中央市メヒカノス区、 同県中央市シウダ・デルガード区、同県西市アポパ区、 ラ・リベルタ県西市コロン区、同県北市ケサルテペケ区 及びラ・パス県東市サカテコルカ区	〔レベル2〕 「不要不急の渡航は止めてください。」（継続）
上記以外の地域	〔レベル1〕 「十分注意してください。」（継続）

【ポイント】

- 危険レベル2を発出しているサンサルバドル県、ラ・リベルタ県及びラ・パス県所在の6区は、2015年にエルサルバドル当局が「テロ組織」と認定した犯罪集団「マラス」等ギャングが過去に勢力を保持していた地域です。現在、ギャングの多くが治安機関により拘束され、活動は沈静化しているものの、各種犯罪は依然として多発していることから、引き続きこれらの6区への不要不急の立ち入りは控えてください。

【概況】

- (1) エルサルバドルでは過去、犯罪集団「マラス」による犯罪が各地で発生していました。2015年8月、エルサルバドル最高裁判所は、「マラス」を「テロ組織」と認定し、それ以降、エルサルバドル政府は「マラス」に対する取締りを強化しました。その結果、人口10万人あたりの殺人事件による死者数が105人と過去最多を記録した2015年以降、殺人事件による死者数は減少に転じました。2019年6月に発足したブケレ政権は、治安対策に重点を置き、2022年3月から例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）をとり、「マラス」等のギャング構成員の身柄を次々と拘束したため、2026年2月現在、拘束者数は9万人以上となっています。この結果、殺人や強盗等の犯罪発生件数は大幅に減少しました（2025年の人口10万人あたりの殺人事件による死者数は1.3人）。しかし、いまだ拘束されていない「マラス」等のギャング構成員が少なからずいる中、今後、同ギャングが反発した場合、ないしは、当局の取り締まりが少しでも緩んだ場合、「マラス」の再活性化等を通じた治安悪化の可能性も否定できないため、治安情勢について、引き続き注意が必要です。
- (2) エルサルバドル政府が推進する治安対策により、犯罪集団「マラス」等ギャングは都市郊外、地方の海岸・山間部や国外に逃亡していることが確認されています。現在、治安機関がギャングを拘束するために国内各地域を捜索していますが、その過程で衝突が発生する可能性があるため、警戒が必要です。

※外務省海外安全情報（危険情報）の詳細につきましては、
外務省海外安全ホームページ： <http://www.anzen.mofa.go.jp>
<http://m.anzen.mofa.go.jp/mbtop.asp>（携帯版）にてご確認ください
または、
外務省領事サービスセンター 電話：（外務省代表）03-3580-3311（内線）2902, 2903
外務省領事局海外邦人安全課（テロ・誘拐関連を除く） 電話：（代表）03-3580-3311（内線）2306
外務省領事局邦人テロ対策室（テロ・誘拐関連） 電話：（代表）03-3580-3311（内線）3047
までお問い合わせください。

弊社では海外安全情報が発出された場合、原則として〔レベル1〕「十分注意して下さい」までの地域、国についてツアーを実施しており、ツアー実施にあたりましては、現地情報を十分把握し、安全で円滑な日程となる様配慮して運行管理を行っております。